声明　　沖縄戦の歴史を歪める自民党西田氏の「ひめゆり発言」に抗議する

アジア太平洋戦争で唯一の地上戦・沖縄戦から 80 年が経ちます。沖縄は米軍の本島上陸、対馬丸遭難、「鉄の暴風」と称される米軍による攻撃など、80 年経った今なお過酷な体験を語り伝え、「戦争だけはしていけない」と発信しています。一方、政府は「台湾有事は日本有事」と煽り、南西諸島の軍事要塞化は進み「戦争前夜」とも言える状況にあります。

那覇市で憲法記念日の 5 月 3 日に開催された改憲を求めるシンポジウムで、西田昌司自民党参議院議員は、20 年前以上にひめゆりの塔を訪問した際に見た説明について、次のような発言をしました。「日本軍がどんどん入ってきたためひめゆり隊が死ぬことになった。そして、アメリカが入ってきて沖縄は解放された。そういう文脈で書いている」「歴史を書き換えられることになる」。

県内外からの批判が高まった 7 日の記者会見では、「(発言は) 撤回しない。事実を言っている」と強弁しました。西田氏が見たという塔の説明のどこが「ひどいのか」という質問には、当時の記憶の曖昧さを理由に具体的に答えませんでした。さらに、批判が高まった 9 日の記者会見では、ひめゆりの塔をめぐる発言については「不適切」とし削除を表明しました。一方、沖縄戦については「沖縄に駐留した日本陸軍第 32 軍は沖縄を守りに行った」「多くの島民が兵隊さんと戦い玉砕した」等とも発言し、講演での「沖縄の場合は地上戦を含めて、かなりむちゃくちゃな教育のされ方をしている。自分たちが納得できる歴史をつくらないと、日本は独立できない」という発言も撤回しないとしました。

ひめゆり平和祈念資料館の普天間朝佳館長は、西田氏の発言内容は、祈念館の展示にも塔の説明にも存在しないとし、西田氏の会見に「納得していない」と述べています。沖縄戦の体験者の証言や研究から明らかになったのは、日本陸軍第 32 軍は本土決戦に備えた時間稼ぎの「捨て石」とされたことです。沖縄戦の最大の教訓は「軍隊は住民を守らない」ことでした。

歴史教育者協議会（以下、「歴教協」と表記）は 1949 年創立時から、テーマに「民族の課題」を掲げ、米軍占領下の沖縄問題を研究し授業実践に努力してきました。また、「沖縄の旅」を企画し、現地で直接体験者の話を聞いてきました。2005 年の沖縄戦「集団自決」が争点になった大江健三郎・岩波書店沖縄戦裁判においても、歴教協は抗議声明を発し、誤った歴史教育を批判してきました。

日本の独立が認められた 1951 年のサンフランシスコ平和条約で、沖縄は奄美群島・小笠原諸島とともに米軍占領下に置かれました。1972 年本土復帰から 53 年後の現在も、復帰に込めた県民の「基地のない平和な島を」の願いは実現していません。面積 0.6%の沖縄に在日米軍基地の 70%が集中し、特権的な日米地位協定の下で米軍基地による被害に県民は苦しんできました。くり返される米兵による女性への性暴力への、米軍・日本政府の対応は解決にはほど遠いものです。

西田氏の「ひめゆり発言」は、事実を歪曲し、沖縄戦犠牲者や体験者の尊厳を傷つけるものであり、「沖縄」の歴史教育を「むちゃくちゃな教育」とした発言も、沖縄問題を研究し授業実践に取り組んできた歴教協として、決して許すことはできません。

2025 年 5 月 25 日

一般社団法人　歴史教育者協議会　常任委員会